

大壇愛宕神社夏季祭礼成功裏に終る

大勢の町民が集い 大いに夏祭りを楽しむ

八月三日〜四日に開催した愛宕神社夏季祭礼には、これまで最高の人出ではなかったかと思うほど、沢山の方々に足を運んでいただき、有難うございました。

実行委員会は五回も開催し、多くの方々に来ていただいたためにはどのような企画が必要か、昨年の反省点を踏まえながら協議を重ねました。町会、愛宕神社氏子会、桜鼓会、さくら会、桜守の会が実行委員会を結成し、いろいろアイデアを出し合いました。

子供時代の楽しいお祭りは、大人になってからも記憶に残る貴重な経験になると思います。そこで育成部では様々なゲームを準備し、役員を中心に子どもへの対応に奔走してまいりました。



走してもらい、沢山の子どもの笑顔が印象に残りました。宵祭りの三日は子ども山車が町内を巡行し、お祭りを盛り上げました。本祭りの四日の午前中愛宕神社の祭典式を執り行

い、町内発展と町民の家の安全を祈願しました。午後からは毎年超人



【昔懐かしい射的が今も健在だ】

会「スーパーボールすくい」大人向けには「ビール早飲み競争」が行われ、子どもも大人もお祭りを存分に楽しみました。また、「方木田稲荷太鼓」が友情出演し、力のこもった演奏に会場から大きな拍手が送られました。夕方からはお祭りの最後を飾る盆踊りが始まり、沢山の踊り子が櫓のまわりを囲みました。

気のスイカ割大会を皮切りに、様々なゲームを楽しみました。スイカ割大会には長蛇の列ができ、「右だ左だ！」と外野席が一気に賑やかになりました。会場内には「射的」「輪投げ」「ストラックアウト」が人気で、水泳大会も



【私、スイカ割ったのよ！】今回は「上手に踊ったで賞」が設けられ、審査員が選んだ踊り子に賞品が贈られました。中にはアメリカから帰省中のお母さんも頑張り、賞品を受け取って嬉しそうでした。二日目お昼頃突然の雨降りでしたがすぐ止んでほっとしました。準備に奔走された実行委員の皆さん、本当にご苦労様でした。



【スイカ割ゲームに長蛇の列】



【皆さん来てくれて有難う！】

お祭りスナッフ



【方木田稲荷太鼓】が友情出演され、喝采を受けた】



【簡単そうで難しい輪投げゲーム】



【祭りを大いに盛り上げる桜鼓会】



【子どもかき氷早食い大会に挑戦】



【さあ！元気に町内を回ろう！】



【大人のビール早飲み競争、女性軍も負けてはいられません！】



環境大臣表彰受ける

九月二日、福島市役所環境部長より、地域環境保全功労者として、大巨桜守の会が環境大臣表彰を受けました。

伝達式には齋藤馨校守の会長と、大槻研司町会長が出席しました。

この表彰は、先人が苦勞されて植栽した桜並木と桜土手の、継続した維持管理の努力が認められたもので、これからも継続して保全管理に努めていかなければなりません。

ちなみに令和元年六月に福島市から「地域環境保全功労者表彰」を、さらに令和三年六月には福島県から「うつくしま・ふくしま環境顕彰」を受けており、これまでの皆様のご協力に感謝申し上げます。



コラム

福治さんの太鼓が脳裏に

大壇愛宕神社お祭りの思い出は沢山ある。一番最初に頭に浮かんでくるのは、齋藤福治さん（現愛宕神社氏子会会長である第三班齋藤敏正さんの祖父）が神社脇に設けられた太鼓台で、浴衣を左半分脱いで叩いている勇ましい姿だ。他の方も叩いている姿を見ている筈だが、何故か福治さんの記憶しかない。どうしてだろうと考えてみると、叩き方が違うのだ。恰好が良いのだ。小学生の私が見惚れたほどだから。ただ叩くのではなく、踊るような、そして弾むような姿で叩いていたので記憶に残っているのだらうと、今そう思う。

時代は移り変わり、その祭りに対する思いを孫の敏正さん等が受け継ぎ、今は桜鼓会の齋藤利規会長がそれを守っている。そして何よりも桜鼓会会員の年齢構成を見ると、その中の広さに感心する。大人と一緒に、学年の違う子どもたちが一堂に会し、目的に向かって取り組むという経験は、子どもの成長過程で貴重な体験だと思う。

愛宕神社のお祭りでは、いつも婦人会の皆さんが、階段下で大福餅や小麦饅頭をガラスケースに入れて売っていた。でも、それを買って食べたという記憶はない。という事は、親には申し訳ないが、小遣いが僅かで買えなかったのかも知れない。

【齋藤 馨】

